

---

**孤独の古本屋めぐり 第八話 関東某所、駅からやや外れた郊外に位置する古本屋**

東上三郎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

孤独の古本屋めぐり 第八話 関東某所、駅からやや外れた郊外に位置する古本屋

### 【Nコード】

N2457G

### 【作者名】

東上三郎

### 【あらすじ】

「孤独のグルメ第八話京浜工業地帯を経て川崎セメント通りの焼き肉」というマンガ作品のパロディーになります。主人公・伊頭ハツネ（17歳女子校生）が、誰にも邪魔されず、気を使わず古本屋を物色するという孤高の行為の物語になります。約1400字の古本屋コメディ小説です。

「こんなところ通るのは初めてだけれど……」

伊頭ハツネは、工場地帯を見つめながら言った。

「すごいわね」

工場の煙突からはもくもくと煙が立ち上り、ゴオン……ゴオン……といった得体の知れない作業音のようなものが辺りに響いている。「もし不注意で事故でも起こすものなら、辺り一帯が火の海になるのは簡単なことかもしれない」

彼女はその時、あらためて本を買いたかったことを思い出す。

「さて、一発新しい古本屋でも開拓しようかしら」

「うん、これはなかなかいい古本屋ね」

彼女はしばらく歩いてから見つけた、一軒の古本屋の外観をさつと眺めて言った。建物は小さくこじんまりとしているが、店先に比較的新しいような本を1冊100円ワゴンセールで置いてあるあたり、店長さんのサービス精神が感じられる。

彼女は店内に入ると、まずコミックコーナーに向かった。

そして、棚から一冊のコミックを手にとって、値札を確認する。

「うん、お手ごろな値段」

さらに、別のコーナーに向かう。

「これは……中古アニメDVDか……うん、安い」

それから彼女は、レジに居るであろう店員さんに向けてやや大きめの声を出す。

「すみませーん、 x x つて漫画ありますか？」

……無反応。店員さんが返事をしそうな気配はない。

個人経営的な古本屋に時々あることなのだが、店内にお客さんが居るにも関わらず、レジには誰も姿を見せないことがある。物騒だなあと思うのだが、それでもお店が開いているところを見ると、何と

か適当に上手く営業しているのだろう……。

仕方なく彼女は、店内の物色を続ける。

「この小説もお手ごろ価格そうね」

彼女は一冊の文庫本を手に取る。昔大ヒットを巻き起こしてゲーム化もされた、破天荒な女の子が魔法を使いながら、一人の男剣士と旅をするファンタジー小説だ。それが、1冊10円という破格の値段になっていた。

「まずい古本屋はぼったくりみたいな値段のつけかたするものねえ」  
彼女はその文庫本のシリーズを数冊手に取り、さらに店内を回る。そして突然、思い出したように苦い顔をする。

「あちゃあ、また買っておかなきゃって本の巻数忘れちゃった……。どうも買いたい本の巻数を覚えておくのは苦手なのよね……」

彼女はがっかりしながらも、本やDVDを目一杯抱えて、レジに向かう。

ハツネはレジに置いてあった呼び出しベルを何回も押しして、ようやく店主が現れた。

店主はのそのそと商品を数えて、レジスターに登録していく。

「……コミック、アニメDVD、文庫全部あわせて二十二点ね」  
すっかり頭が禿げ上がった店主の老人が、言った。

二十二点かあ、思ったよりボリュームあるなあ……。

その時、彼女はレジ前に中古マンガの最新刊コーナーが備え付けられているを発見した。

それらについている値段も、普通の古本屋よりいくぶんかは安い。  
うーん、どうしよう……。

……えい。

彼女は思い切って言った。

「すみません、この中古の最新刊マンガも3冊追加して下さい。あとガムもついでに」

すると、店主の老人は「うおオン」と謎のうめき声をあげた。

そして、言う。

「君はまるで人間マンガ図書館だね……」

「うー、いくらなんでも買いすぎた」

彼女は、両手にビニール袋をぶら下げて、言った。

「うー、重い。今はとても、頭が回らない……」

伊頭ハツネはそんなことを言いながらも、関東某所、駅からやや外れた郊外に位置する古本屋を後にした。

終

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2457g/>

---

孤独の古本屋めぐり 第八話 関東某所、駅からやや外れた郊外に位置する古

2010年10月8日22時08分発行